我が国におけるレスリング競技の普及・発展についての一考察

A Study on the Spread and Development of Wrestling in Japan

1K08B221-5 山口 剛

指導教員 主査 友添 秀則 先生 副査 吉永 武史 先生

【序章】本研究の動機と目的

レスリングは世界的に人気のあるスポーツである。しかし、日本国内でレスリングはそれほど人気のあるスポーツではない。私は、大学生時代、体育会レスリング部に所属し、入学当初から何度か国際大会に出場してきたが、試合会場では衝撃を受けた。国際大会の場合、会場は観客で満席になり、レスリング関係者以外の人々が観戦に足を運んでいた。日本国内の試合は観客のほとんどがレスリング関係者で、一般の観客は極めて少ない。

近年、日本レスリングはオリンピックで数多くのメダルを獲得しているにも関わらず、観客や競技人口がそれほど増加していないことに疑問を感じた。様々な要因が考えられる中で、これらを解決し、今後、我が国でさらにレスリングを普及・発展させる可能性はあるのだろうか。レスリング競技の将来のために、この可能性を考察してみたいと考えた。

本研究では、レスリング競技が日本に入ってから現在まで、レスリング競技がどのような歴史をたどったのかを考察し、レスリングの現場にある問題を明らかにすることで、普及していない要因を明らかにすることを目的とした。現在の日本レスリング競技の現状と課題を明確にし、今後日本レスリングがさらに普及・発展していくための一考察とする。

本研究の方法は、レスリングの歴史に関する文献や資料や関連ホームページを参考に考察を行う文献研究とする。

【第1章】

本章では、日本にレスリングがどのように導入され、現在まで普及・発展をしてきたのかを明確にした。

日本レスリングはレスリングの父である八田一朗らによって普及・発展がなされてきた。八田一朗は、国内のみならず、海外遠征、外国人選手の招致など国際交流を積極的に行なった。導入直後は外国人選手にまったく太刀打ちできなかったが、八田一朗らの指導により、何人もの世界チャンピオンを輩出し、「レスリング王国日本」と呼ばれるようになった。

その後、2004年から女子レスリングもオリンピックの正式種目に導入され、2012年に行われたロンドンオリンピックでは、全競技の金メダル獲得数の半数以上を獲得し現在に至っている。

【第2章】

本章では現在の小学校、中学校、高校、社会人と各段階における現状と課題を明確に、また障害スポーツとしての可能性も示唆した。

現在、全国各地にレスリングクラブが増えてきており、小学生の人口は増加傾向にある。しかしながら、小学校から中学校に段階が上がるとレスリング離れをしてしまう現実がある。この要因の一つとして、学校教育に導入されていない点と、クラブ活動で行われていないという点があげられた。中学校においては、大会数が少なく、活動しづらい。高校生においては、年間5つの全国大会が行われており、グレコローマンスタイルが実施されている大会が3つである。これはグレコローマンを専門、得意とする選手のモチベーションの低下につながっていると推測された。社会人においては、レスリングを続けている選手が少ない。1つの要因として、レスリングが続けられる環境が少ないということが示唆された。

レスリングは障害スポーツとしても普及してきている。ダウン症や自閉症をもっている子供やその親のつながりを作る場ともなっている。今後、レスリングの良さや魅力を多くの人達に伝えることで、スペシャルオリンピックスの正式種目とされることが目指されていた。

【結章】

結章においては、今後のレスリング競技の普及と発展に向けた展望と課題について述べた。

本研究においては、レスリング競技の普及において最も大きな問題として学校教育に導入されていない、クラブ活動として行われていない点であると考察された。

今後、日本レスリング協会とレスリング関係者が、学校教育とクラブ活動にレスリングが導入されるよう、より普及活動をしていくことが今後の課題であると結論付けられた。